

山名	槍一穂高縦走	CL	鎗水	SL	福岡
日程	24年9月10(日)～16(日)	気象	晴れ	報告者	鎗水(9/18記)

参加者：福岡、川原、山本、山下、田中(静)、鎗水、今泉(佐賀労山)、直塚(佐賀労山) 合計8名

経 費

収 入

支 出

行程・所要時間(横尾山荘から横尾大橋までの写真記録による)

9/12 5:45横尾山荘～7:25槍沢ロッジ～8:45大曲～10:00天狗原分岐～11:20坊主岩小屋～13:30山荘～14:25槍ヶ岳

9/13 6:15槍ヶ岳山荘～7:10大喰岳～7:30中岳～8:50南岳～13:10北穂高小屋

9/14 5:30北穂高小屋～9:05涸沢岳～9:20/9:45穂高岳山荘～10:30/10:45奥穂高岳～11:25/11:30穂高岳山荘
～13:40/14:00涸沢ヒュッテ～15:15本谷橋～16:05横尾大橋

登山概要

9/12 横尾から槍までは天狗原分岐を過ぎてから、徐々にきつさが増してくるが、槍が見える為希望も湧いてくる。しかし最後の500mはとにかくきつい。

9/13 今回山行のハイライトである大キレットの踏破である。南岳小屋を過ぎてから始まる大キレットは聞きしに勝る難所であった。ナイフエッジのピークをいくつも越え、最後は高低差約200mの北壁を登攀し北穂高岳山荘に到着。それでも皆良く頑張り、予定時間を5分短縮した。

9/14 本日の計画は北穂高岳～涸沢～奥穂～前穂～岳沢であったが、鎗水が北穂高の先のドームを過ぎた所で転倒、体調がおかしくなり、涸沢岳の最後の一登りではロープでビレイを取って引き上げてもらい、かつ荷物の半分を背負ってもらった。穂高小屋到着は50分の遅れとなり、かつ鎗水は奥穂に登れる状態ではなく、鎗水以外のメンバーが奥穂往復し、穂高小屋～涸沢～横尾のコースに変更した。

概 念 図

問 題 点・反 省 点

次ページ

- 9/12 槍ヶ岳山荘の500m手前位で、山本さんが体調不良(眠気)となった。これは山岳登山では血圧が上昇するが、日常低血圧の為昇圧薬を飲んでおり、その結果と判断された。山荘で血中酸素濃度と血圧を測定したが、正常に復した。
- 9/13 南岳に向かう途中で山本さんが転倒。草が生えていたので大したダメージは受けていないと思ったが、帰崎後膝下がむくみ病院へ。
- 9/14 北穂高の先のドームを過ぎた狭いが比較的平坦な縦走路で、鎗水が岩に右足を取られ前に転倒、右脇下を強打。以降浅い呼吸しかできず下りでも息苦しく、脚が重たくなった。多分、高度障害(食欲不振)で体力が衰え、脚がふらつき転倒に至ったものと思う。
9/18 医者の診断では、右側上から2～6番目肋骨が骨折し肺を損傷。漏れた空気と内出血が右肺を圧迫。既に4日経過しており更に圧迫されていくか、自然治癒するか安静に経過を見る事とした。(9/25肺はほぼ元通りに膨らんでいるが、まだ無理は出来ない。)
- 山岳登山と高度障害、病気、傷害等についても知識を深める必要がある。
- 登山をする以上基本的なセルフレスキューは年齢に関係なくマスターさせる必要あり。